



大沢野・細入地域

大沢野地域小・中学校の再編原案検討のポイント



再編原案選定の過程

- (1) 大沢野地域の再編対象校は船嶽小である。
- (2) いずれの再編原案においても適正規模を確保できる。

学級数・児童生徒数 (R3.5.1現在)

小学校名 (3校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数												
大沢野	2	60	2	65	3	75	3	76	3	103	3	85	16	464
大久保	3	77	3	80	2	69	2	66	2	70	2	74	14	436
船嶽	1	5	8	5	1	9	1	9	1	9	1	9	5	45

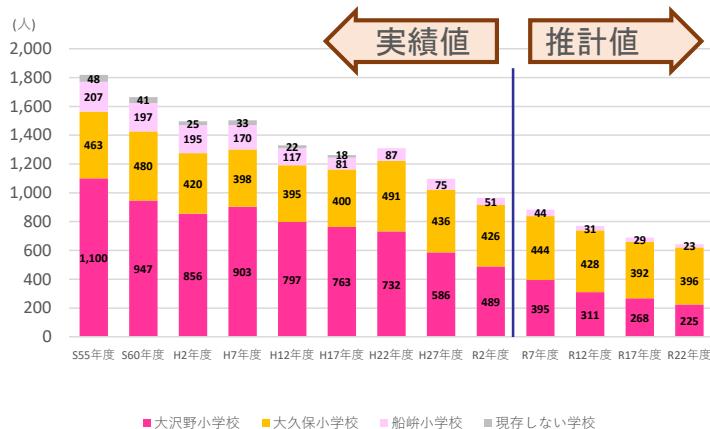
※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。
 ※船嶽小は2・3年生で複式学級を編制。

中学校名 (1校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
大沢野	4	160	4	157	4	159	12	476

※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

出典：富山市の教育（令和3年度）

小学校児童数推移

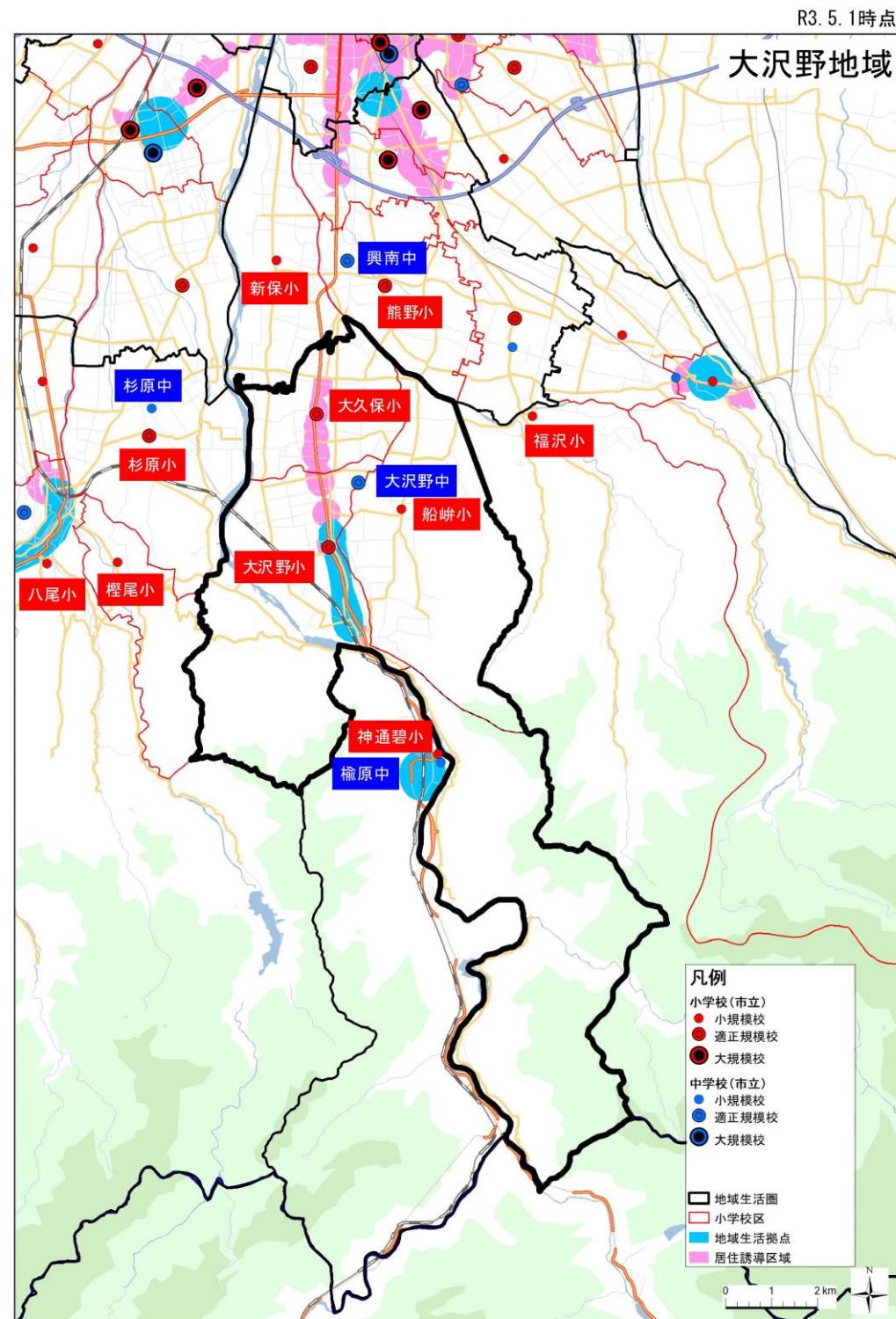


出典：各学校沿革史（昭和55年度～平成12年度）、富山市の教育（平成17年度～令和2年度）
 令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

中学校生徒数推移



学校位置図



細入地域小・中学校の再編原案検討のポイント



再編原案選定の過程

- (1) 細入地域の再編対象校は神通碧小・榆原中である。
- (2) いずれの再編原案においても適正規模を確保できる。
- (3) 細入地域は再編先学校がないことから、大沢野地域との再編を検討した。

学級数・児童生徒数 (R3.5.1現在)

小学校名 (1校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数												
神通碧	1	12	4	4	1	6	1	10	1	13	1	11	5	56

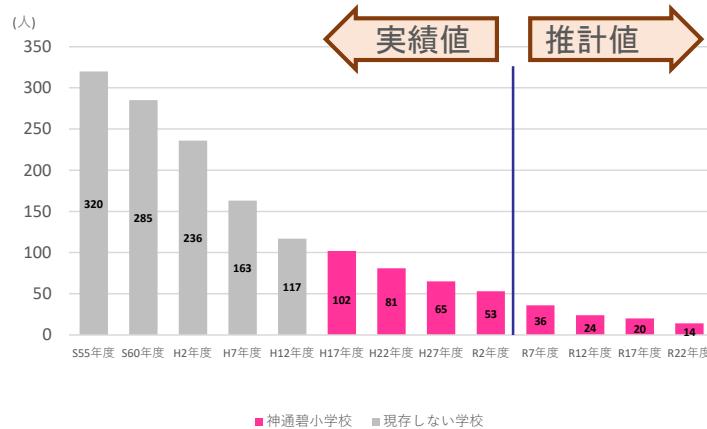
※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。
 ※神通碧小は2・3年生で複式学級を編制。

中学校名 (1校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
榆原	1	8	1	5	1	16	3	29

※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

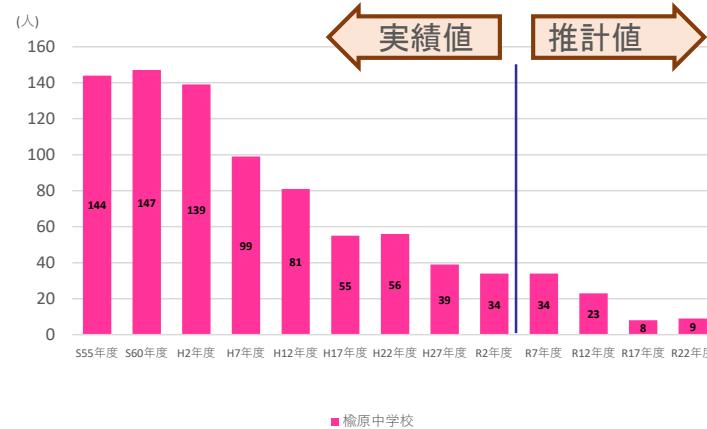
出典：富山市の教育（令和3年度）

小学校児童数推移

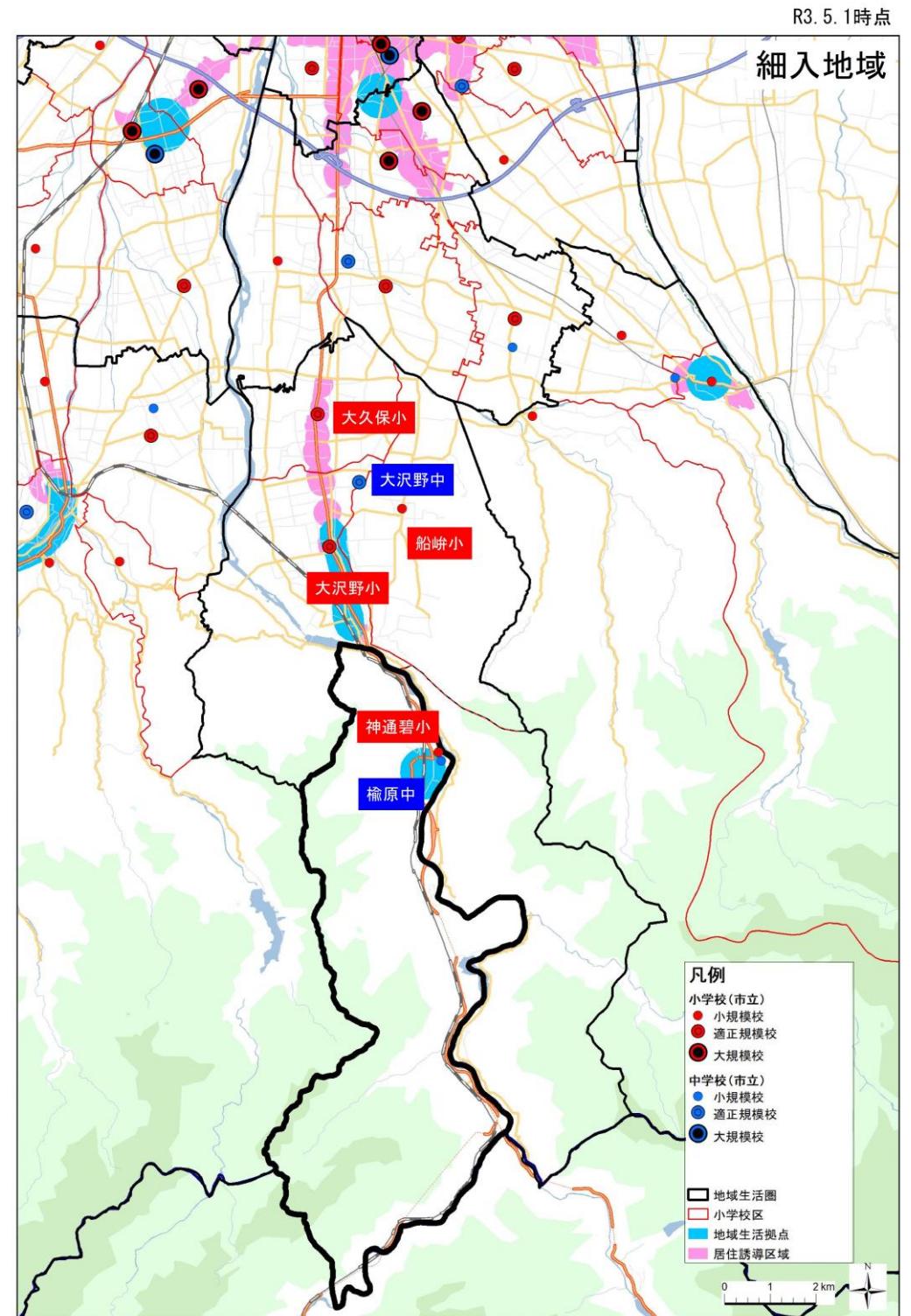


出典：各学校沿革史（昭和55年度～平成12年度）、富山市の教育（平成17年度～令和2年度）
 令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

中学校生徒数推移



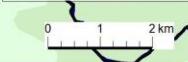
学校位置図



R3.5.1時点

細入地域

- 凡例
- 小学校(市立)
 - 小規模校
 - 適正規模校
 - 大規模校
 - 中学校(市立)
 - 小規模校
 - 適正規模校
 - 大規模校
 - 地域生活圏
 - 小学校区
 - 地域生活拠点
 - 居住誘導区域



大沢野・細入地域小・中学校再編原案リスト



《大沢野地域内の学校》

小学校：大沢野小学校、大久保小学校、**船崎小学校**

中学校：大沢野中学校

《細入地域内の学校》

小学校：**神通碧小学校**

中学校：**榆原中学校**

地域 生活圏	再編を検討する学校の組み合わせ			再編後の基本データ							再編原案	手法				
	再編対象校		再編対象校との組み合わせを 検討する学校	再編先学校	学校規模 (学級数)				再編先学校の教室充足状況				通学 距離			
	(複式学級がある学校)	(全年半学級の学校)			R7	R12	R17	R22	R7	R12				R17	R22	R3
大沢野	船崎小学校		大沢野小学校	現 大沢野小学校	適正 (16)	適正 (13)	適正 (12)	適正 (12)	7	10	11	11	58%	21人	大沢野-1	統合
	船崎小学校		大久保小学校	現 大久保小学校	適正 (18)	適正 (14)	適正 (12)	適正 (12)	▲ 4	0	2	2	97%	35人		
大沢野・ 細入	神通碧小学校		大沢野小学校	現 大沢野小学校	適正 (15)	適正 (13)	適正 (12)	適正 (12)	8	10	11	11	93%	51人	大沢野・細入-1	統合
	船崎小学校、神通碧小学校		大沢野小学校	現 大沢野小学校	適正 (17)	適正 (13)	適正 (12)	適正 (12)	6	10	11	11	79%	72人	大沢野・細入-2	
		榆原中学校	大沢野中学校	現 大沢野中学校	適正 (14)	適正 (13)	適正 (9)	適正 (9)	8	9	13	13	100%	27人	大沢野・細入-3	

再編を検討する学校の概況



※()内は進学先中学校
 ※()内は学校規模
 ※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4.(1)。(3)及び(4)に基づく
 ※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

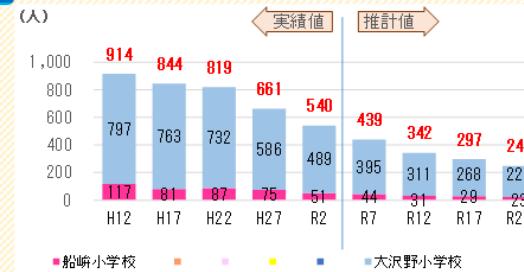
該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

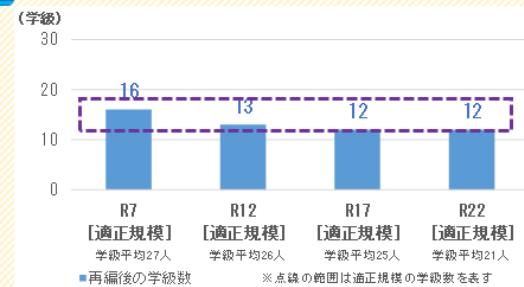
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



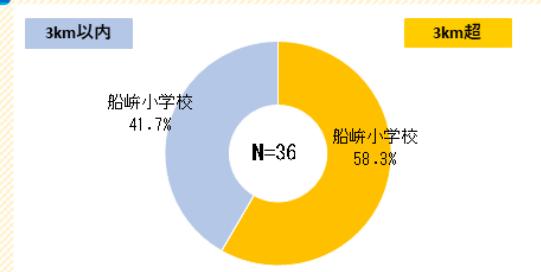
※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホト変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



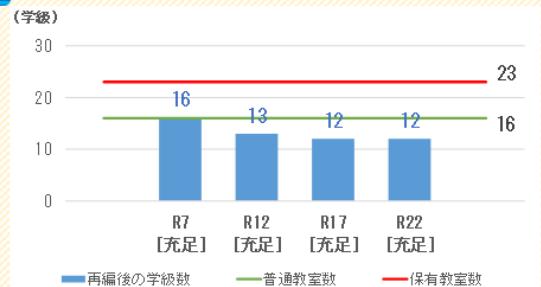
適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下
 ※コーホト変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている。
 不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている。
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホト変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数38年)	-	B	B	B	B	B
校舎2 (建築年数37年)	-	B	B	B	B	B
校舎3 (建築年数22年)	-	B	B	C	B	B
校舎4 (建築年数22年)	-	C	B	C	B	B
体育館 (建築年数28年)	-	B	B	C	B	B

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
 C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の見)
 D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
 ※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
 (洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所)

※富山市避難所一覧(令和3年5月24日更新)

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。農地法第5条第4の規定に基づく協議書が必要となる可能性がある。

再編を検討する学校の概況



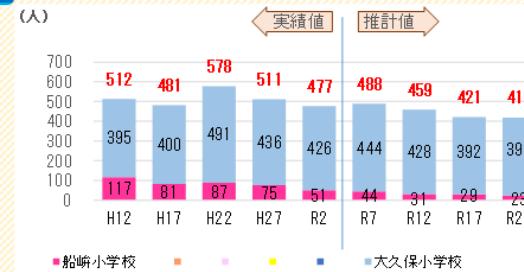
※()内は進学先中学校
 ※()内は学校規模
 ※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4.(1)。(3)及び(4)に基づく
 ※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数(「富山市の教育」)

該当する地域生活圏及び小学校区



検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤文字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホト変化率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



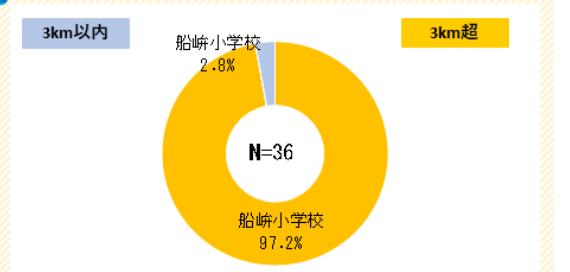
※コーホト変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した
 適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・ 塵上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数62年)	○	B	C	B	B	B
校舎2 (建築年数56年)	○	B	B	B	B	B
校舎3 (建築年数48年)	-	C	C	C	C	C
校舎4 (建築年数43年)	-	C	C	C	C	C
校舎5 (建築年数42年)	-	C	C	C	C	C
体育館 (建築年数36年)	-	B	B	B	B	B

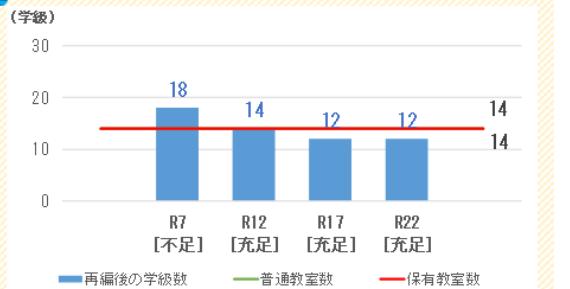
A：概ね良好
 B：部分的に老朽化(安全上、機能上、問題なし)
 C：広範囲に老朽化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
 D：早急に対応する必要がある(安全上、機能上、問題あり)
 ※富山市学校施設長寿命化計画(令和3年3月)

再編後の通学距離



※再編を検討する学校(再編先学校を除く)に現在通学している児童生徒について住民基本台帳(令和3年8月時点)に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を下回っている。
 不足：再編後の学級数が保有教室数(必要教室数)を上回っている。
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホト変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】令和7年は教室数は不足しているが、令和12、17、22年は教室数は充足している。
- 【施設健全度】老朽化が進行している。
- 【周辺状況】居住誘導区域(立地適正化計画)内に位置する。
農地法第5条第4の規定に基づく協議書が必要となる可能性がある。

再編を検討する学校の概況



※()内は進学先中学校
 ※()内は学校規模
 ※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4.(1)。(3)及び(4)に基づく
 ※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（「富山市の教育」）

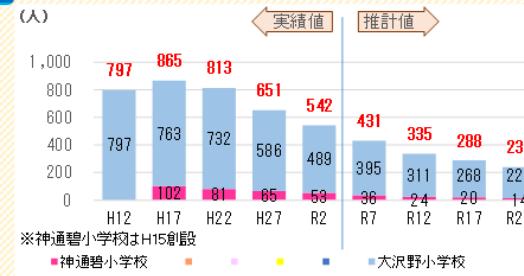
該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

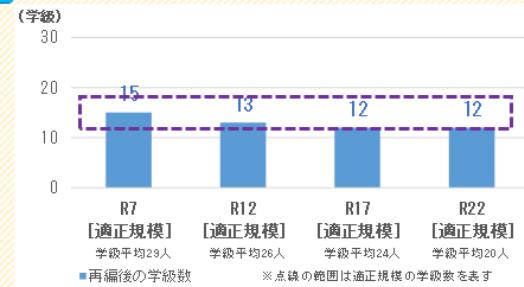
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホト変換率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模（学級数）



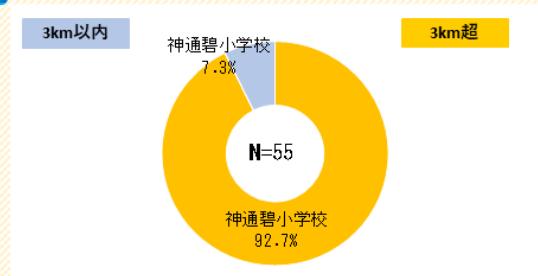
適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下
 ※コーホト変換率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数38年)	-	B	B	B	B	B
校舎2 (建築年数37年)	-	B	B	B	B	B
校舎3 (建築年数22年)	-	B	B	C	B	B
校舎4 (建築年数22年)	-	C	B	C	B	B
体育館 (建築年数28年)	-	B	B	C	B	B

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）
 C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）
 D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）
 ※富山市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

再編後の通学距離



※再編を検討する学校（再編先学校を除く）に現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っている。
 不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている。
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホト変換率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



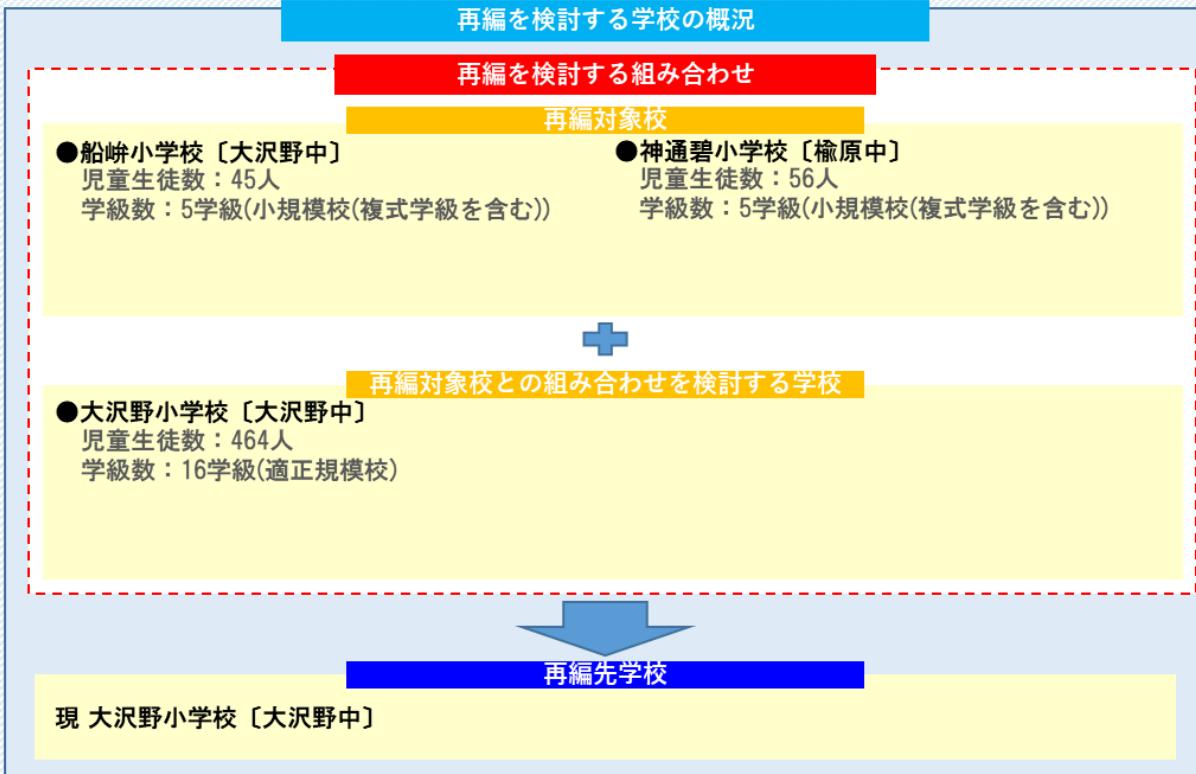
再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
 （洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所）
 ※富山市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域（立地適正化計画）内に位置する。

再編を検討する学校の概況



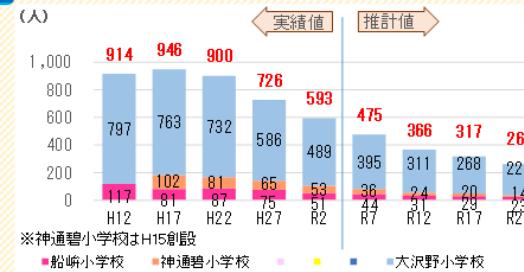
※()内は進学先中学校
 ※()内は学校規模
 ※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4.(1)。(3)及び(4)に基づく
 ※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（「富山市の教育」）

該当する地域生活圏及び小学校区



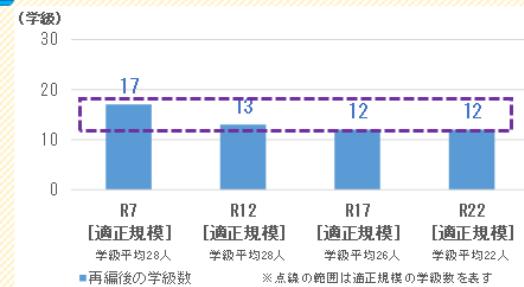
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホト変換率法に基づき推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



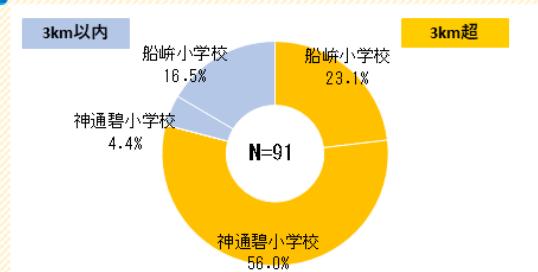
適正規模：学級数が12学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が11学級以下
 ※コーホト変換率法に基づき推計した児童生徒数により学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数38年)	-	B	B	B	B	B
校舎2 (建築年数37年)	-	B	B	B	B	B
校舎3 (建築年数22年)	-	B	B	C	B	B
校舎4 (建築年数22年)	-	C	B	C	B	B
体育館 (建築年数28年)	-	B	B	C	B	B

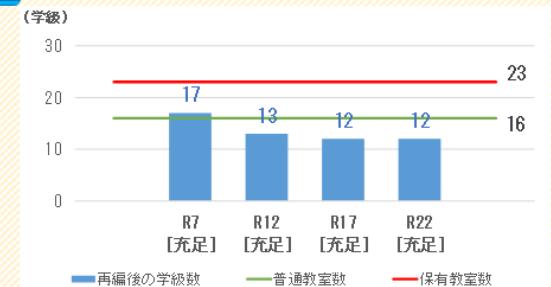
A：概ね良好
 B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）
 C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）
 D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）
 ※富山市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

再編後の通学距離



※再編を検討する学校（再編先学校を除く）に現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っている。
 不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている。
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホト変換率法に基づき推計児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第1次避難所
 （洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所）

※富山市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

コメント

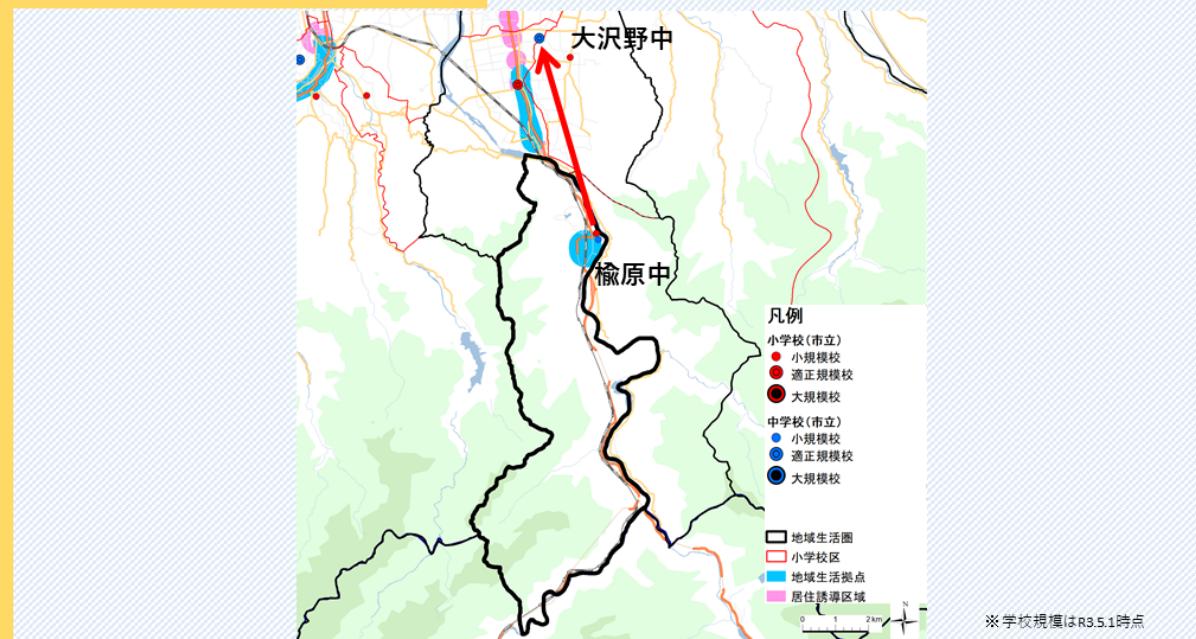
- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】一部老朽化が進んでいる。
- 【周辺状況】地域生活拠点及び居住誘導区域（立地適正化計画）内に位置する。

再編を検討する学校の概況



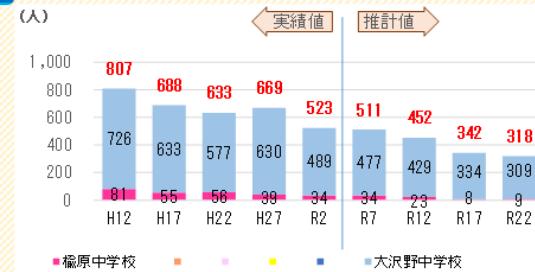
※()内は進学先中学校
 ※()内は学校規模
 ※再編を検討する組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4.(1)。(3)及び(4)に基づく
 ※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（「富山市の教育」）

該当する地域生活圏及び小学校区



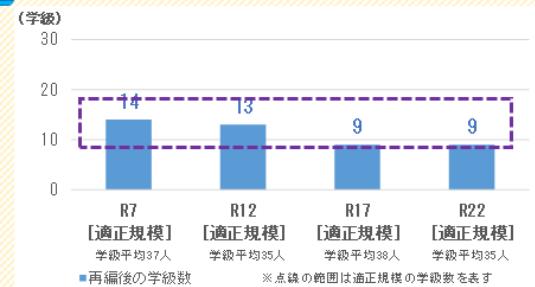
検討の観点

再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数
 ※赤字は児童生徒数の合計
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数
 ※令和7年以降はコーホト変換率法に基づく推計児童生徒数

再編後の学校規模(学級数)



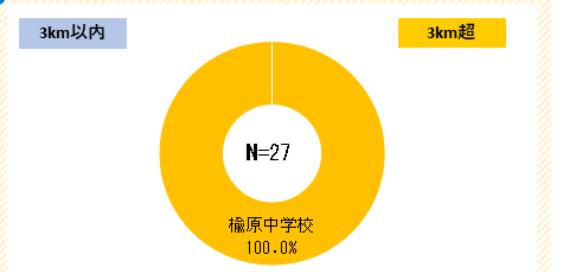
適正規模：学級数が9学級以上18学級以下
 大規模：学級数が19学級以上
 小規模：学級数が8学級以下
 ※コーホト変換率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎 (建築年数40年)	-	B	B	B	B	B
体育館 (建築年数39年)	-	B	B	B	B	B

A：概ね良好
 B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）
 C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）
 D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）
 ※富山市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

再編後の通学距離



※再編を検討する学校（再編先学校を除く）に現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っている。
 不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている。
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数
 ※コーホト変換率法に基づく推計児童生徒数により学級数を算出

再編先学校の周辺地域状況



再編先学校の指定避難所区分

第2次避難所
 （洪水時には1階以上に避難すべき緊急避難場所）

※富山市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12、17、22年のいずれの時点においても適正規模校となる。
- 【必要教室数】再編後の生徒数に対して、教室数は充足している。
- 【施設健全度】概ね良好である。
- 【周辺状況】居住誘導区域（立地適正計画）付近に位置する。